

2023年度 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2023年7月27日(木)15:30~16:28

パワエレ エネルギー

Q: 施設・電源システムについて、東南アジアの需要が拡大して収益性も向上しているが、その持続性は。

A:

・シンガポールの子会社の盤事業が好調に推移している。データセンターや半導体メーカー関連の受注が好調で、シンガポール子会社の受注残充足率は100%に近い状況で、フル稼働を継続しているため、利益率も改善している。2022年度の受注が大幅に増加したこともあり、2023年度の受注は反動減を見込んでいたが、売上高は引き続き好調に推移するだろう。

Q: 器具の2Q以降の需要見通しは。

A:

・国内は、受配電盤メーカー向けやIDC案件向けは好調が継続する見通しだが、機械セットメーカー向けや半導体向けは、市庫の増加影響等により需要が減少する見通し。海外は、中国、アジア、米国を中心に低調に推移する見通し。QonQは、2Qを底に緩やかな回復を見込む。

パワエレ インダストリー

Q: オートメーションの受注状況は。

A:

- ・1Q受注は対計画で上振れ。計測機器・センサが牽引し、主要製品である低圧インバータ、回転機は計画線で推移した。
- ・2Q受注は、低圧インバータは計画線で推移している一方、サーボは市況が回復せず、若干下振れする見通し。
- ・国内は、半導体・電池製造装置などの機械向けFAコンポーネントは下期回復を見ていたが、3Qは回復せず、4Q回復を期待している。一方、計測機器・センサおよびエレベータ、給水ポンプ向け等の低圧インバータは好調に推移している。不調な領域を好調領域で打ち消し、トータルでは計画線で推移する見通し。
- ・海外は、足元では、中国は低圧インバータが計画線で推移している一方、サーボが減少している。インドはポンプ、エレベータ向け低圧インバータが好調、欧州はOEM先からの受注が好調に推移している。下期はまだ精査できてないが、現時点での見方では中国は下振れ、インド・欧州は上振れの見通しであり、トータルでは計画線で推移する見通し。

半導体

Q: 半導体の1Q営業利益率が悪化している要因は。

A:

- ・1Qは、当社工場の稼働日調整等による生産減があり利益率が悪化したが、2Q以降は、生産増等により利益率は改善する見通し。
- ・原材料価格や動力費の高騰に対し、昨年から実施してきた製品価格転嫁の効果は既に出ている。

Q: 半導体の1Q受注(対4Q)について、電装向けの減少が大きい理由は。

A:

- ・電装向け受注の減少は、ほぼ電動車向けの減少によるもの。
- ・顧客の在庫積み増しにより、前年度の4Q受注が増加したこと、加えて、1Qは当社工場の稼働日減が見込まれていたため、顧客に発注を2Q以降に調整して頂いたことが主要因。

Q: 電装向けの1Q受注・売上(対前年)について、電動車・エンジン車別の状況は。また、2Q以降の受注見通しは。

A:

- ・1Q受注(対前年)は、電動車向けは36%増、エンジン車向けは5%増。1Q売上(対前年)は、電動車向けは43%増、エンジン車向けは7%増。
- ・2Q受注(対1Q)は、電装向けは約20%増、うち電動車向けは約30%増の見通し。1Qで発生した当社工場の稼働日調整分を2Qで挽回することに加え、自動車の生産そのものが増える見通し。
- ・下期受注(対上期)は、電動車向けは20%弱増加する見通し。

- ・電装向けの顧客は今後も在庫を積み増すか。

A:

- ・1Qで在庫調整しており、現時点では一過性と見ている。

Q: 産業向けの2Q以降の受注見通しは。回復の牽引役となる向け先は。

A:

- ・2Q受注(対1Q)は、為替影響を除き約5%増の見通し。欧米、特に中国向けの再エネが牽引し、下期にかけて増加する見通し。

Q: 中国の再エネ向けは内製化の動きがあるが、影響はあるか。

A:

- ・再エネ向けは大型デバイスが必要になるが、品質が重要視され、製造メーカーは限られていることから受注をいただいている。

Q: 中小型車向けラインアップ拡大の業績貢献はいつか。

- ・2025年後半から2026年にかけて業績に寄与し始める。

Q: SiCウェハの調達状況は。

A:

・数年先まで必要量は確保できている。

発電プラント

Q: 北海道蘭越町の地熱発電の掘削中におきた蒸気噴出による影響は。

A:

・当社は本件に関与していない。熱源の調査・開発は、当社の事業範囲外の工程のため、直接的な業績影響はない。

食品流通

Q: 食品流通の1Q売上・利益が好転した要因と、その持続性は。

A:

・1Qは飲料メーカー向け自販機の受注が想定よりも好調に推移した。年間業績予想を変更していないが、上振れが期待できる。

Q: 2024年度の新紙幣発行による業績インパクトは。

A:

・2023年度は、POSメーカー向け釣銭機で数億レベルの売上増、利益増を見込んでいる
・2024年度は、釣銭機に加えて自販機の紙幣識別機の需要増が期待できるが、顧客の設備投資動向にも左右されるため、現時点では業績影響の規模は不透明。

Q: 国内自販機の1Q出荷台数は。

A:

・1Qの出荷台数は2万8千台弱、対前年30%弱の増加。

以 上